

## 割合と社会的正義

以前、小学校の先生向けの雑誌で、Brian Greer 先生の「社会的正義にとっての割合的感覚」という論文の紹介をしたことがある。その後、割合についていろいろ考えてみる中で、改めて割合の学習にとって“正義”という感覚が、かなり本質的に重要なのかもしれないを感じられるようになった。

平成 29 年告示の学習指導要領に対する解説の算数編でも、「割合を表す数は、基準量を単位とした比較量の測定値であるともいえる」(p. 218)と説明されている。割合で比較する場合、比較する 2 組の量の間で、基準量は必ずしも同じであるとは限らない。つまり、割合による比較とは、同じとは限らない単位を用いた測定値による比較ということになる。1.8 メートルと 3.2 フィートを比べて 1.8 と 3.2 だから後者の方が長い、という判断が誤りであるように、異なる単位を用いた測定値をそのまま比較するのは、基本的には不適切であろう。しかし、割合ではこれがむしろ推奨されている。

例えば、募金を呼び掛けていた時にある人が 1 万円を寄付してくれ、別の人気が 500 円を寄付してくれたとする。円を基準として考えれば、前者の方の寄付金額が圧倒的に多く、募金を集めたい自分としても大変助かる。

しかし、前者の人が実は月収 100 万円のビジネスパーソンで、後者は月のお小遣いが 1000 円の子どもだとすると、必ずしもそうとも言い切れなくなる。前者の人は月の収入の 1 % を寄付してくれたのに対し、後者の子は月の収入の実に 50 % を寄付してくれたのであった。そうなると、50 % を寄付してくれた気持ちを大切にしたいと思うであろう。

割合による比較は、こうした思いを重視した比較のように思われる。それぞれの人の事情を考慮した比較という意味で、“優しい” 比較かもしれないし、それぞれの事情に考慮した負担を求めるという意味では“社会的正義” に繋がるのかもしれない。

割合による比較を学習するにあたり、こうした側面はどの程度、大切にされてきているであろうか。

【算数・数学教育における IAQ に戻る】